



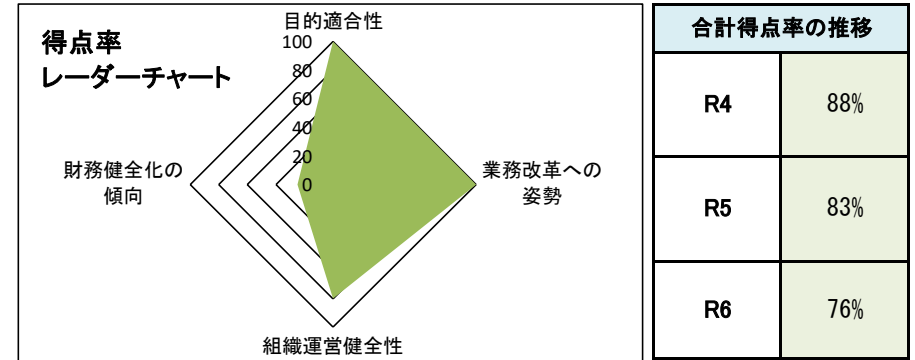
[財務状況]

(単位：円)

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	特記事項
資産合計	321,760,572	321,241,294	319,064,662	
流動資産合計	4,757,487	3,986,541	1,558,492	
固定資産合計	317,003,085	317,254,753	317,506,170	
負債合計	6,833,851	7,870,682	8,050,722	
流動負債合計	1,062,820	1,580,753	1,242,146	
うち有利子負債	0	0	0	
固定負債合計	5,771,031	6,289,929	6,808,576	
うち有利子負債	0	0	0	
正味財産合計	314,826,721	313,370,612	311,013,940	
一般正味財産	314,826,721	313,370,612	311,013,940	
指定正味財産	0	0	0	

[評点集計]

評価の視点	評価のポイント	項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	法人が行っている事業と当初の設立目的が適合しているか	5	10	10	100%
業務改革への姿勢	法人経営の方針や事業の実施目標等を設定し、それらに沿った運営を行っているか等	5	10	10	100%
組織運営健全性	組織、人事、財務等の内部管理体制が適切に整備・運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切か	5	10	8	80%
財務健全化の傾向	法人の財務状況が健全化傾向にあるか(前年度・前々年度の財務状況と比較)	5	20	5	25%
合計得点率(各項目得点率の平均)			76%		



(単位：円)

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	特記事項
経常収益計	16,730,432	15,462,593	15,408,414	
うち県補助金計	0	0	0	
経常費用計	16,317,776	17,018,702	17,765,086	
事業費計	14,627,138	15,278,284	15,881,478	
うち人件費	9,794,798	9,400,159	9,368,139	
管理費計	1,690,638	1,740,418	1,883,608	
うち人件費	1,039,325	1,191,699	1,341,751	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	412,656	△ 1,556,109	△ 2,356,672	
経常外収益計	0	0	0	
うち県補助金計	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	
正味財産期末残高	314,926,721	313,370,612	311,013,940	

[県からの財政支出]

(単位：円)

区分	令和7年度予算額	令和6年度決算額
補助・交付金	0	0
委託料	11,652,124	11,354,000
貸付金	0	0
その他	0	0
計	11,652,124	11,354,000

[財務指標]

(単位：%)

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	R5-R4	R6-R5	算式
自己資本比率	97.85	97.55	97.48	△ 0.30	△ 0.07	正味財産合計 ÷ 資産合計 × 100
流動比率	447.63	252.19	125.47	△ 195.44	△ 126.72	流動資産合計 ÷ 流動負債合計 × 100
有利子負債依存度	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	有利子負債計 ÷ 資産合計 × 100
管理費比率	10.36	10.23	10.60	△ 0.13	0.38	管理費計 ÷ 経常費用計 × 100
人件費比率	66.39	62.24	60.29	△ 4.16	△ 1.95	人件費計 ÷ 経常費用計 × 100
独立採算度	102.53	90.86	86.73	△ 11.67	△ 4.12	(経常収益計 + 経常外収益計 - 県からの補助金収入) / (経常費用計 + 経常外費用計) × 100

[自己評価]

	前年度（令和6年度）	当年度（令和7年度）
前年度の法人運営についての自己評価（振り返り）	新型コロナの5類移行に伴い、ほぼ通常の規模・内容で事業を実施することができた。〔街頭キャンペーン等各種PR活動の通常実施、「命の学習会」（7回開催・724名参加）、院内コーディネーター研修の年度3回実施、理事会・評議員会・専門委員会（透析委員会及び企画委員会）の対面開催等〕。また、県内（自治医科大学附属病院）で2件の脳死下での臓器提供があり、協会所属の県コーディネーターが準備段階から医師や院内コーディネーターと連携して様々な連絡調整等を行った。	各種事業に積極的に取り組んできた。〔街頭キャンペーン等各種PR活動の実施、「命の学習会」（6回開催・約800名参加）、院内コーディネーター研修の年3回実施、理事会・評議員会・専門委員会（透析委員会及び企画委員会）の対面開催等〕。また、県内（獨協医科大学病院）で1件の心停止下での臓器提供があり、協会所属の県コーディネーターが準備段階から医師や院内コーディネーターと連携して様々な連絡調整等を行った。
事業実施上の課題（主に目的適合性・業務改革の姿勢の評価を基に作成）	臓器移植を推進するための県民への知識・意識の普及啓発や、適切な臓器提供のための県コーディネーターを中心とした県内医療機関との連携も綿密かつ効果的に行われていると考える。今後は、県コーディネーターの豊富な経験や知識技能及び県内中核病院との連携体制維持に向けた人材（後継者）の育成が課題となる。	臓器移植を推進するための県民への知識・意識の普及啓発や、適切な臓器提供のための県コーディネーターを中心とした県内医療機関との連携も綿密かつ効果的に行っている。今後は、県コーディネーターの豊富な経験や知識技能及び県内中核病院との連携体制維持に向けた人材（後継者）の育成により一層注力したい。
組織・財務上の課題（主に組織運営健全性・財務健全性化の傾向の評価を基に作成）	組織については、現任の県移植コーディネーターを継承していく適切な人材の確保・育成が必要である。 財務については、事業が通常ベースの規模・内容に戻ったことに伴う経費増に加え、物価高騰や国債の金利低下が財務状況に影響を与えており、引き続き基本財産の安定的運用、効果的な募金運動の展開、事業効果を低下させない範囲での経費節減等が必要と考える。	組織については、現任の県移植コーディネーターを継承していく適切な人材の確保・育成が必要である。 財務については、積極的な事業展開による経費増に加え、物価高騰や国債の金利低下が財務状況に影響を与えており、引き続き基本財産の安定的運用、効果的な募金運動の展開、事業効果を低下させない範囲での経費節減等が必要と考える。
県現職派遣の理由、必要性の評価	-	県の施策を展開していくにあたり、重要な役割を担う団体であるため。
課題に対する今後の取組の方向性	・現任の県移植コーディネーターの在職中に適切な人材を雇用し、OJT等による引継ぎができるよう、関係各所からの情報等も踏まえながら、適任者の採用に努めていく。 ・現下の金利情勢を踏まえた安定的な財産運用及び、適切な財務管理に努める。 ・引き続き、様々な機会を捉えた普及啓発や適切な臓器提供に向けた医療機関との連携を推進する。	・現任の県移植コーディネーターの在職中に適切な人材を雇用し、OJT等による引継ぎができるよう、関係各所からの情報等も踏まえながら、県と連携し適任者の採用に努めていく。 ・現下の金利情勢を踏まえた安定的な財産運用、募金活動の強化、経費節減等適切な財務管理に努める。 ・引き続き、様々な機会を捉えた普及啓発や適切な臓器提供に向けた医療機関との連携を推進する。

**[継続検討項目に対する取組状況] ※該当法人のみ作成**

継続検討項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他団体との統合等を含むあり方の検討</li> </ul> <p>臓器移植を推進するためには、県民の理解を深めることはもとより、医師の理解、協力の下、医療機関における臓器移植医療の体制を構築することが重要である。こうした観点から、他団体との統合等を含め、効果的な事業推進に資する運営形態の検討と関連団体の理解に向けた協議を進める。</p>
--------	--

		前年度（令和6年度）	当年度（令和7年度）
取組状況	法人	<p>県医師会等と連携協力しつつ、県内中核病院と県コーディネーター間にも緊密な情報交換・連携体制を構築している。</p> <p>また、ホームページにより法人に係る情報を発信している。</p>	<p>当協会は、理事長が県医師会長であることから、県医師会はもとより、県透析協会・県腎臓病患者友の会等との連携協力を強化していく。また、県内中核病院と県コーディネーター間にも緊密な情報交換・連携体制の強化も図っていく。さらに、豊富な経験・知識技能を有する県コーディネーターの後継者を育成するなど、事業を効果的に推進できる体制の充実に努めていく。</p>
	所管部局	<p>県民の理解を深めるため、協会と県が一体となって街頭キャンペーンなどの普及啓発に取り組んできたほか、事業推進体制の強化に向け、令和7年度当初予算において、県コーディネーター複数配置のための人件費を確保した。</p>	<p>募金依頼先の拡大に向けて、市町等への募金協力依頼や関係団体への募金箱設置を進めるとともに、県コーディネーターを複数配置するための採用活動支援及び予算の確保に取り組む。また、令和7年度に移植医療支援室型拠点施設に選定された自治医科大学附属病院との連携を強化するための調整を行っていく。</p>

【県と法人の役割分担】

政策目標	臓器移植に関する普及啓発の促進及び臓器移植体制の構築		
県の役割	協会や関係機関と連携・協力し、臓器移植に関する普及啓発活動等を効果的かつ効率的に実施する。	法人に期待する役割	円滑な移植医療実施のため、医療従事者や県民への普及啓発活動及び臓器提供発生時における関係機関との連絡調整活動を行う。

【県が期待する役割の達成状況】（法人所管部局による評価）

効果測定	事業概要	効果測定指標	目標値	実績			R6達成率	評価
				R4	R5	R6		
	臓器移植推進事業	命の学習会・出前講座実施者数	750	1,877	724	794	106%	B

所管部局評価		評価理由	今後の連携・見直し方針
S	県の期待を大きく上回り達成している	効果測定指標に対する実績値から判断するに、臓器移植に係る普及啓発・連絡調整という目的を概ね達成したと考える。これまでの事業を通じて得られた経験や連携は協会独自の強みであることから、これらを活かしたより効果的な事業展開を図っていくことを期待する。	運営形態の改善のため、募金活動等により歳入を増やす他、県コーディネーターを増員するとともに、核となる医療機関との連携を更なる強化していく。
A	県の期待を十分達成している		
O	B 県の期待を概ね達成している		
C	県の期待を実現できていない		

【総合評価】（県統括部門による評価）

総合評価		総合的所見	指摘事項
S	「評点集計」の合計得点率75%以上かつ「所管部局評価」が「S」	<p>栃木県臓器移植推進協会は、臓器移植に関する普及啓発や医療機関との連携体制強化など、県民の健康と福祉の向上に資する事業を実施している。</p> <p>財務面では、自己資本比率や流動比率は高水準であるものの、特に流動比率や独立採算度は2期連続で低下しており、財務健全性に懸念がある。</p> <p>自己評価では、各種事業に積極的に取り組み、臓器移植推進のための体制強化が評価されている一方、県コーディネーターの後継者育成や財務状況の安定的運用が課題であるとしている。</p> <p>継続検討項目では、拠点病院をはじめとした関係団体との連携協力の強化、情報発信の充実、募金の協力依頼等に取り組むこととしていることから、これまでの検討結果を取りまとめ、方向性を明確化することが今後の課題である。</p> <p>所管部局評価では、特に普及啓発活動の成果を評価している。</p>	なし
A	「評点集計」の合計得点率75%以上かつ「所管部局評価」が「A」		
O	B 「評点集計」の合計得点率60%以上かつ「所管部局評価」が「B」以上		
C	「評点集計」の合計得点率60%未満もしくは「所管部局評価」が「C」		